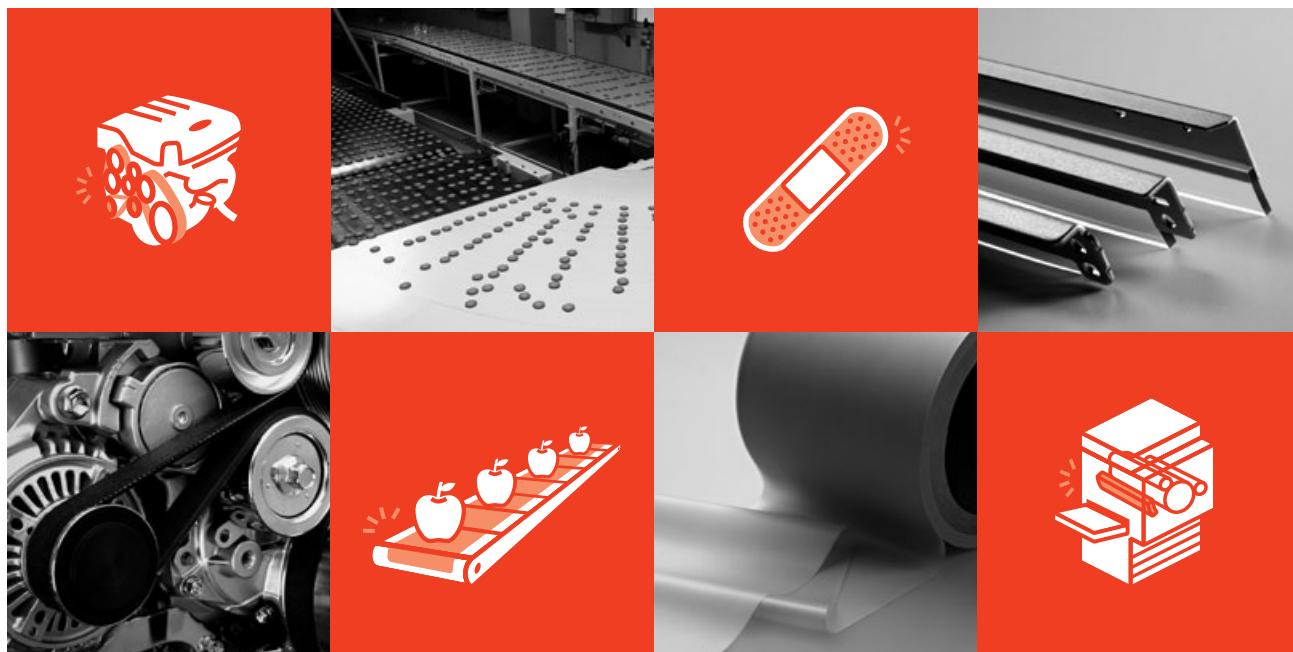




*Breakthroughs for the future*

# 第94期 株主通信

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで



**バンダー化学株式会社**



## 「未来への躍進」に向けて、 中長期経営計画を推進

代表取締役社長 **吉井満隆**

### ご挨拶

株主の皆様には、日頃は格別のご高配に預かり、心からお礼申しあげます。第94期株主通信をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当年度における世界経済は、米国においては、内外需要の回復を背景に個人消費が底堅く推移し、欧州においては、英国のEU離脱など先行きが不透明な状況のなか、緩やかな景気回復が見られました。中国においては、長期的な減速基調が継続し、アジア地域においては、タイの国王崩御による自粛ムードやインドの高額紙幣廃止などの影響は限定的となりましたが、総じて停滞感のあるなかで推移いたしました。また、日本においては、緩やかな回復で推移いたしました。当社グループの主要な市場である自動車分野におきましては、米国や欧州では前年度に引き続き自動車生産台数が堅調に推移いたしました。中国においても、小型車に対する減税措置の効果が継続し、自動車生産台数が前年度を上回りました。一方、日本においては、軽自動車の販売減少の影響などがあるなかで、自動車生産台数は前年並みとなりましたが、ハイブリッド車などのベルト非装着車種が増加したことにより、ベルト装着車種の生産台数は減少いたしました。産業機械分野におきましては、国内の設備投資に持ち直しの兆しが見られるものの、なお低い水準で推移いたしました。一方、高性能フィルムの主要な市場である国内の建築分野におきましては、住宅・非住宅着工数が堅調に推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第1ス

テージの4年目として、自動車用、二輪車用、農業機械用および産業機械用の伝動ベルトのほか軽搬送用ベルトなどの販売体制を強化し、中国、アセアン地域を中心に顧客開拓を推進いたしました。また、国内初となる自己消炎性を有した難燃耐熱コンベヤベルト「FR7000シリーズ」、産業機械の大型化・高負荷化・コンパクト化の需要に応えるべく、国内初となる高弾性アラミド心線を採用した結合型細幅Vベルト「パワーエース®アラミドコンボ」およびバイオマス発電プラント専用コンベヤベルト「BANDO FR-BIOS™（バイオス）」など、市場最適仕様製品の開発を促進いたしました。新製品の開発につきましては、国立大学法人神戸大学との包括連携に基づく研究を推進したほか、光学用透明粘着剤シート「Free Crystal®（フリークリスタル）」などを開発いたしました。加えて創業110周年記念事業として開催した「バンドーテクノフェア2016」では、開発に取り組んでいるさまざまな製品を披露いたしました。また、経済産業省と東京証券取引所から、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組む姿勢が評価され、「健康経営銘柄2017」に選定されました。これらの結果、当年度は、円高の影響もあり、売上高は883億8千7百万円（前年同期比5.2%減）、営業利益は58億9千6百万円（前年同期比1.1%減）、経常利益は65億7千1百万円（前年同期比3.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は49億5千1百万円（前年同期比12.9%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### トップインタビュー

**Q** 中長期経営計画の進捗状況は。

**A** 当社グループは、2013年度から2022年度までの10年間の中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）を策定し、それに基づいて経営を進めてまいりました。2017年度は、第1ステージ（BF-1）と位置づけた前半5年間の最終年度となります。BF-1においては、「現事業の進化と深化」と「研究開発と市場開拓の強化」に向けて、「グローバル市場戦略の進化」「製品の進化」「ものづくりの進化」「新事業の創出」「経営品質の進化」の5つの指針を掲げ、様々な施策を実施してまいりました。当社グループの「10年後のあるべき姿」に向けて、企業体質は改善傾向にありますが、外部環境の変化もあって、計画した規模の拡大には遅れを生じています。本年度は、BF-1の5つの指針に掲げる目標をやりきること、次なる第2ステージにつなげたいと考えております。

**Q** 具体的な取り組み内容をお聞かせください。

**A** 第1ステージでは、運搬や伝動用など主力であるベルト事業をはじめとする現事業の収益力を上げる一方で、新事業の創出を目指してまいりました。現事業で最も力を入れているのがアジアです。特にインドやベトナムなどの新興市場の開拓は着実に進んでおり、期待に応える成長を遂げています。さらなる販売拡大に向けて、インド南部のバンガロール工場の生産ラインの増強や北部グルガオンの本社工場の移転・拡張を実施してまいります。また、ベトナムでも新工場への移転・拡張によ

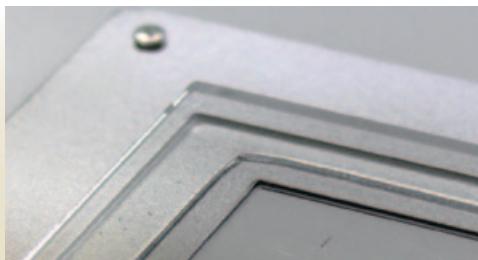
る生産設備の拡張を行う予定です。新興国では、ベルト製品のさらなる需要拡大が見込まれるため、世界最適生産・販売・供給体制の構築を着実に推進してまいります。一方で、将来的に自動車用エンジンの電氣化がさらに進むと、現在の主力である補機駆動用伝動ベルトは減少する方向となります。その一方で新たに需要が発生している同期駆動ベルトや自動車の電子化に伴い重要となる熱管理に着目した「放熱シート（高熱伝導シート）」、車載ディスプレイに使用される「光学用透明粘着剤シート（OCA）」などの開発にも取り組んでおります。

当社グループ一丸となって、中長期経営計画を着実に実行し、持続的な成長力の確保と企業価値のさらなる向上に努めてまいります。



2016年6月 光学用透明粘着剤シート「Free Crystal®」を開発

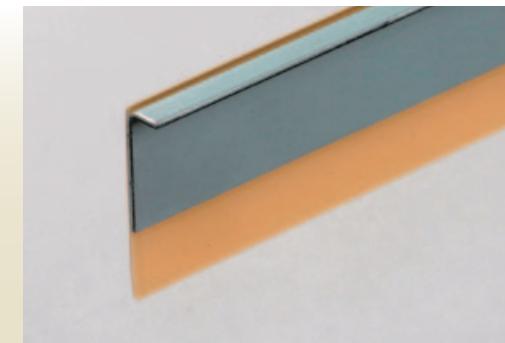
当社独自の技術により2mmまでの超厚膜ニーズに対応した光学用透明粘着剤シートを開発しました。ベゼル付きLCMのダイレクトボンディングニーズに対応した新製品として、タッチパネルの用途拡大に伴う、ニーズの多様化に貢献してまいります。



Free Crystal®

2016年11月 「JIMTOF2016」に出展(東京ビッグサイト)

「問題解決」をキーワードに、機械内部へ切り粉やクーラントの侵入を防ぐため、当社が長年培ってきたウレタンの配合技術・加工技術を活かして開発した「バンドーワイパーエッジ®EX」や産業機械の同期伝動に最適な高負荷対応の歯付ベルト「Ceptor®-X (セプターテン) S8MタイプS14Mタイプ」のご紹介や製品によるデモンストレーションを行い、多くの引き合いを頂戴しました。



「バンドーワイパーエッジ®EX」

▶「第1回 M-Tech NAGOYA」に出展(ポートメッセなごや)

▶「FOOMA JAPAN2016」に出展(東京ビッグサイト)  
▶「監査等委員会設置会社」に移行  
▶「第20回 M-Tech」に出展(東京ビッグサイト)

▶「バンドーテクノフェア2016」を開催(神戸、東京)

▶結合型細幅Vベルト「パワーエース®アラミドコンボ」を販売開始



▶名古屋オフィスを移転

▶「CSR報告書2016」を発行

▶「国際フロンティア産業メッセ2016」に出展(神戸国際展示場)

2016年11月 「ベトナム新工場建設に伴う移転・拡張」を決定

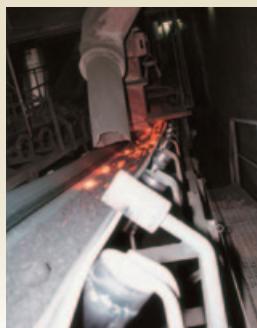
当社は、2012年4月ベトナムに現地法人を設立し、二輪車向けの伝動ベルトおよび関連製品の生産・販売を行っております。このたび、現工場が立地する第2タンロン工業団地内に土地使用権を取得し、移転・拡張することを決定しました。ベトナムでは、今後も二輪車市場の堅調な成長が予想され、農業機械・産業機械の市場成長やOA機器メーカーによるチャイナプラスワンの動きに伴い、伝動ベルトやクリーニングブレード等の需要拡大が見込まれます。生産体制を拡張することにより、アジアでの事業展開をさらに加速してまいります。



ベトナム新工場完成予想図

2016年9月 難燃耐熱コンベヤベルト「FR7000シリーズ」を開発

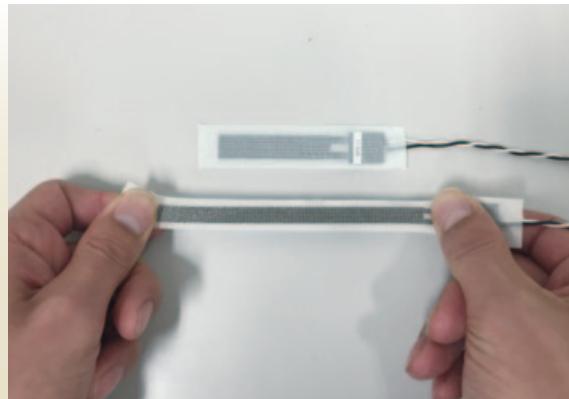
安定した連続搬送が求められるベルトコンベヤでは、火災の原因となりやすい高温搬送物を運搬するラインでは難燃性能を有したコンベヤベルトが求められています。当社は、長年蓄積してきたエラストマー配合設計技術、ベルト設計技術を活用し、難燃耐熱コンベヤベルト「FR7000シリーズ」として2016年9月にベルト表面温度が60℃～100℃となる領域で使用可能なFR7500を開発し、2017年2月にはベルト表面温度が100℃～180℃となる高温領域で使用可能なFR7700を開発し、ラインナップを拡充いたしました。



難燃耐熱コンベヤベルト

2017年 1月 「第3回 ウェアラブルEXPO」に出展  
(東京ビッグサイト)

伸縮性ひずみセンサ[C-STRETCH®]のアプリケーションとして①ベッドサイドで簡単に利用できる飲み込みをお知らせする機器、②体表面から非侵襲的に測定できる呼吸状態計測機器、③曲げ・捻りの計測から腰への負荷を可視化する関節計測機器、④家族の出産イベントへの期待を高める妊婦見守り機器を出展したほか、上半身の運動に着目し、体幹の運動によって歩行を支援する「歩行アシスト用品」を出展し、大きな反響をいただきました。



伸縮性ひずみセンサ[C-STRETCH®]

2017年 3月 バイオマス発電プラント向けコンベヤベルト  
「BANDO FR-BIOS™(バイオス)」を開発

近年、日本国内で広がりを見せるバイオマス発電プラント向けとして、最適な専用コンベヤベルト「BANDO FR-BIOS™(バイオス)」を開発し、2017年4月から販売を開始いたしました。バイオマス発電プラントでは、燃料となる石炭、木材、PKS(ヤシ殻)を同じコンベヤラインで搬送するケースが多く、いずれの搬送物においても安定した搬送が求められます。PKS(ヤシ殻)、木材に対応する耐油性、石炭搬送に対応する耐摩耗性、プラントの安全性を高める難燃性の3つの機能を併せ持つ製品で、お客さまの安定・安全操業に貢献してまいります。



PKS(ヤシ殻)

2017年 1月

2月

3月

2017年 2月 「健康経営銘柄2017」に選定

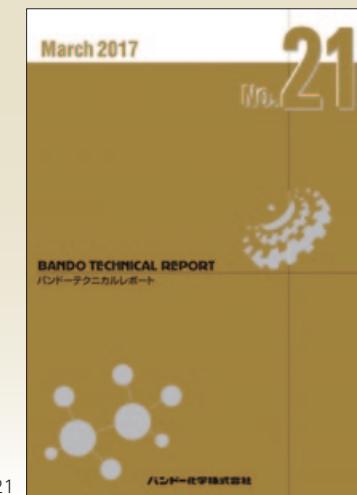
経済産業省と東京証券取引所から従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として、「健康経営銘柄2017」に初選定されました。当社は『一人ひとりが健康増進に取り組み、生き活きと働く職場をつくる』を安全衛生方針の行動指針に定め、健康保持・増進の活動やメンタルヘルスケア対策、職場環境改善に取り組んでいます。今回の選定を機に、さまざまな施策をさらに推進し、従業員一人ひとりがやりがいを持って、生き活きと働くことができる環境の整備に努めてまいります。



「健康経営銘柄2017」に選定

2017年 3月 「バンドーテクニカルレポートNo.21」を発刊

当レポートは、当社の新製品開発・技術開発の一端の紹介を目的とした新製品開発・技術開発に関する研究論文や新製品の紹介などで構成される総合技術レポートです。今号では「C-STRETCH® 医療・福祉・介護分野の取組みについて」、「C-STRETCH®を用いた歩行中の非侵襲的な呼吸数計測法の開発」、「カーボンファイバーの垂直配向制御と放熱シートの開発」の研究論文などを掲載しております。



バンドーテクニカルレポートNo.21

## 事業別の概況

### 自動車部品事業

売上高 40,320百万円 前年同期比 5.9%減  
セグメント利益 2,937百万円 前年同期比 11.6%減

#### 概況のポイント

- 国内では、積極的な営業活動や新素材の投入により補修市場への販売は前年並みを維持したものの、ベルト非装着車種の増加や軽自動車の販売不振などを背景に自動車メーカーへの販売が減少し、国内全体では販売が減少。
- 海外では、アセアン地域で積極的な顧客開拓に注力したことによりスクーター用変速ベルトの販売が増加。またタイヤの自動車生産台数が堅調に推移したため、自動車の補機駆動用伝動ベルト・伝動システム製品の販売が増加。海外全体では現地通貨ベースの販売は増加したものの、円高の影響で減収。

### 高機能エラストマー製品事業

売上高 14,914百万円 前年同期比 4.5%減  
セグメント利益 294百万円 前年同期比 61.3%減

#### 概況のポイント

- 精密機能部品については、当社主要顧客である国内外のOA機器メーカーの減産の影響により、クリーニングブレード、樹脂部品などの販売が減少。
- 機能フィルム製品については、国内で非住宅関連の需要が好調に推移するなか、積極的な営業活動を推進したことにより建築資材用、工業用および医療用フィルムの販売が増加。

### 産業資材事業

売上高 31,446百万円 前年同期比 5.0%減  
セグメント利益 1,991百万円 前年同期比 3.5%増

#### 概況のポイント

- 伝動ベルトについては、中国およびアセアン地域における販売強化により農業機械用および産業機械用伝動ベルトの販売が増加したものの、国内および米国では設備投資需要が低調に推移した影響を受け、産業機械用伝動ベルトの販売が減少し、全体では販売が減少。
- 運搬ベルトについては、国内、中国およびアセアン地域で積極的な顧客開拓を進めたことにより、樹脂コンベヤベルト（サンライン®ベルト）の販売が伸長したものの、収益重視の受注活動により、コンベヤベルトの販売が減少。

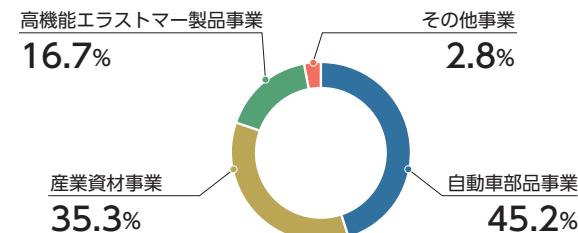
### その他事業

売上高 2,509百万円 前年同期比 4.6%減  
セグメント利益 427百万円 前年同期比 54.9%増

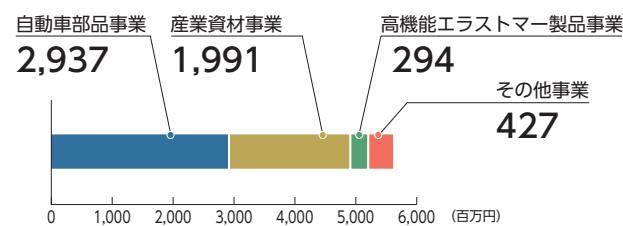
#### 概況のポイント

- ロボット関連デバイス事業や金属ナノ粒子のナノ粒子創生技術などを活かした新製品開発を推進。

#### 当年度の事業別売上高構成比



#### 当年度のセグメント利益



※上記の各セグメント別売上高およびセグメント利益は、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

## 財務ハイライト

#### 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

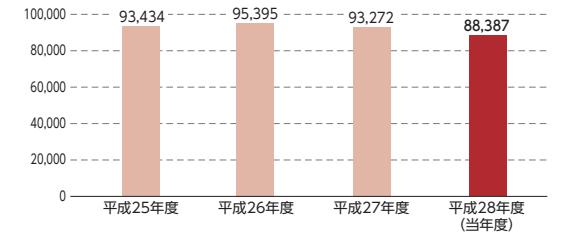
科目	当連結会計年度 (H29.3.31)	前連結会計年度 (H28.3.31)	
資産の部	流動資産	52,801	47,520
	固定資産	43,894	43,244
	有形固定資産	29,137	29,486
	無形固定資産	1,548	1,188
	投資その他の資産	13,207	12,568
資産合計	96,695	90,765	
負債の部	流動負債	24,773	24,980
	固定負債	13,181	10,580
負債合計	37,954	35,560	
純資産の部	株主資本	58,513	55,756
	その他の包括利益累計額	7	△970
	非支配株主持分	220	418
純資産合計	58,741	55,204	
負債純資産合計	96,695	90,765	

#### 連結損益計算書(要旨)

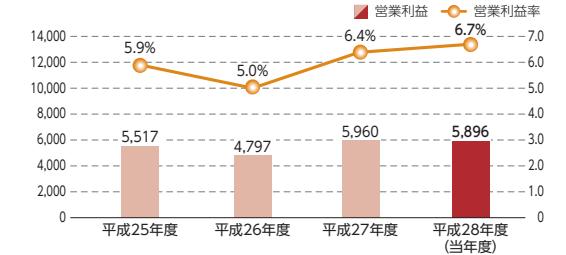
(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (H28.4.1から H29.3.31まで)	前連結会計年度 (H27.4.1から H28.3.31まで)
売上高	88,387	93,272
営業利益	5,896	5,960
経常利益	6,571	6,363
親会社株主に帰属する当期純利益	4,951	4,386

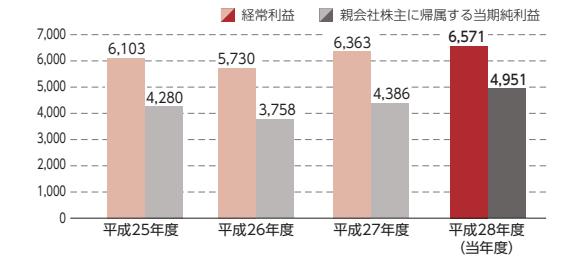
#### 売上高 (百万円)



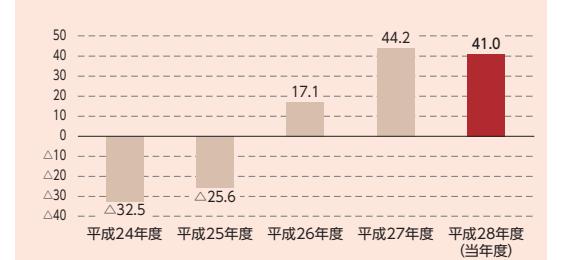
#### 営業利益/営業利益率 (百万円)



#### 経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



#### 純有利子負債の推移 (億円)



# 株式の状況／会社概要 (平成29年3月31日現在)

## 株式の状況

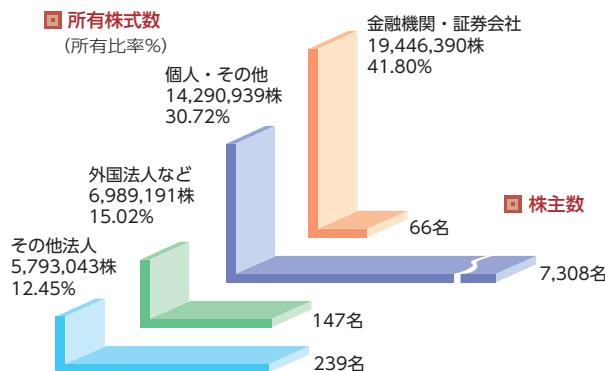
発行可能株式総数	187,000,000株
発行済株式の総数	47,213,536株 (自己株式693,973株を含む。)
株主数	7,761名

## 大株主

大株主名	当社への出資の状況	
	持株数	出資比率
バンドー共栄会	3,803千株	8.17%
株式会社三井住友銀行	2,315	4.97
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,002	4.30
明治安田生命保険相互会社	2,000	4.29
株式会社みずほ銀行	1,800	3.87
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,575	3.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,530	3.28
日本生命保険相互会社	1,174	2.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,122	2.41
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	920	1.97

(注) 1. 出資比率は、自己株式(693,973株)を控除して算出しております。  
2. 上記の出資比率につきましては、小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。

## 株主構成



当社は、平成28年10月1日付で、単元株式数の変更(1,000株から100株)、株式併合(2株を1株に併合)を実施いたしました。

## 会社概要

社名 バンドー化学株式会社  
Bando Chemical Industries, Ltd.  
創業 1906年(明治39年)4月14日  
設立 1937年(昭和12年)1月7日  
本社事業所 神戸市中央区港島南町4丁目6番6号  
TEL (078) 304-2923  
ホームページアドレス <http://www.bandogrp.com>

## 役員 (平成29年6月22日現在)

### 取締役

代表取締役社長 吉井満隆(社長執行役員)  
取締役 中村恭祐(常務執行役員)  
取締役 柏田真司(常務執行役員)  
取締役 染田厚(執行役員)  
取締役(監査等委員) 松坂隆廣(常勤)  
取締役(監査等委員) 重松崇  
取締役(監査等委員) 清水春生

### 執行役員

常務執行役員 大原正夫  
常務執行役員 岩井啓次  
常務執行役員 北林雅之  
常務執行役員 鮫嶋壽  
常務執行役員 畑克彦  
執行役員 山口勝也  
執行役員 永瀬貴行  
執行役員 万場一幸  
執行役員 松尾聡  
執行役員 岡田勉

※取締役(監査等委員) 松坂隆廣氏、取締役(監査等委員) 重松崇氏、取締役(監査等委員) 清水春生氏は社外取締役であります。

## 事業所・グループ企業一覧 (平成29年4月1日現在)



## 株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 連 絡 先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL (通話料無料) 0120-094-777
公 告 方 法	電子公告により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.bandogrp.com">http://www.bandogrp.com</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞および神戸新聞に掲載して行う。
上 場 取 引 所	東京 (第1部)

### 〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



**BANDO**



バンドーグループは  
環境にやさしい事業を  
推進しています

